

# 「胃腫瘍に対する ESD における誤嚥性肺炎に関する検討」

へのご協力をお願い

代表者 所属：内科 職名：院長補佐 氏名：竹中 龍太

## 1. 目的

ESD 手技の習熟により高齢者や基礎疾患を有する患者に対しても ESD が積極的に行われてきている。呼吸機能の低下している患者では術後の誤嚥性肺炎の発生が危惧されるが、術前呼吸機能と ESD 後の誤嚥性肺炎との関連を調査した報告はほとんどない。

## 2. 対象と方法

術前に呼吸機能検査の施行されていた 978 例を対象に、換気障害の有無により術後誤嚥性肺炎の発生頻度が異なるか後方視的に調査した。誤嚥性肺炎の診断は術後に発熱、酸素化不良などの呼吸器感染症状に加え、胸部 X 線あるいは CT で肺炎像を認めた場合とした。さらに換気障害を拘束性換気障害 ( $\%VC < 80\%$ )、閉塞性換気障害 ( $FEV1.0\% < 70\%$ )、混合性換気障害 ( $\%VC < 80\%$ かつ  $FEV1.0\% < 70\%$ ) に層別し、誤嚥性肺炎のリスクを評価するとともに術前パラメーターと誤嚥性肺炎との関連について解析した。パラメーターには換気障害の有無のほか、年齢、性、併存症、嗜好歴、服薬歴、身長、体重、日常生活度、腫瘍占拠部位 (U/M/L)、腫瘍形態 (隆起/平坦陥凹)、腫瘍径、潰瘍瘢痕の有無、治療時間、術者、鎮痙薬、プロポフォール使用量を用いた。

## 3. 研究期間

平成 8 年 6 月 1 日 ～ 平成 26 年 5 月 31 日

## 4. 調査票等

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。あなたの個人情報には削除後匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には最新の注意を払います。

- ・年齢、性別、家族歴、既往歴、嗜好、診察初見など
- ・検査データ、画像データ、手術記録、病理記録など
- ・治療内容、有害事象など

## 5. 情報の保護

調査により得られたデータを取り扱う際は、被検者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

個人情報には完全に秘匿されておりますのでご安心下さい。もし患者様自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象といたしませんので下記までご連絡下さい。

津山中央病院 病院長 林 同輔

連絡先：電話 0868-21-8111（担当： 内科 竹中 龍太）